

## 2020年度 社会福祉法人光国会 事業報告(案)

### ●法人事業報告について

#### 1、各事業所の実績について

事業所	登録者数		1日平均利用者	
	今年度	前年度	今年度	前年度
摂津交流センター バクの家	40名	32名	27.91名	26.5名
バクさんのくつろぎ	名	12名	名	4.33名
ハッピーワールド	18名	18名	15.17名	16.1名
バクのパン屋さん (バクかふえ含む)	21名	23名	15.91名	15.6名
光摂ホーム	13名	14名	12.38名	12.8名
摂津障害者生活支援センターはあねす	76名	65名		

\*登録者は、2021年3月末現在。

\*1日平均利用者は、2020年3月と2021年3月の1ヶ月間で比較。

#### 2、目標についての振り返り

##### (1) 運営について

- ① 全ての日中事業所の利用者数を増やします。
  - ・10月5日(月)に、摂津支援学校合同事業所説明会への参加を行った。また、法人全体で2名の見学者を受け入れたが、利用には繋がらなかった。今後も、支援学校等への積極的な働きかけや、見学の受け入れを行っていくことを続けながら、法人内に「誰でも受け入れていく」(ウエルカムモード)を更に浸透させていく必要があると考えられる。
- ② 全ての日中事業所において年間休日開所スケジュールの作成を行います。
  - ・新型コロナウイルス感染症拡大を受けて、休日に予定していた行事がほぼ全て中止となり、予定の大幅な変更を行う必要があった。そのことも影響し、当初予定していた休日開所の日数を確保できていない状況がある。また、各事業所単独での休日開所スケジュールを作成したことにより、効率的な開所が難しい状況も確認できた。今後は、法人のスケールメリットを活用しながら、休日開所を実施

していく必要があると考えられる。

- ③ ホームページのさらなる充実や、公開研修の実施等により多くの人に法人の活動を知ってもらえる取り組みを行います。
  - ・新型コロナウイルス感染症拡大を受けて、公開研修は中止となったが、6月12日（金）より、ツイッターのアカウントを取得し、法人内の情報発信を開始している。今後も、新型コロナウイルスの感染状況等を考慮しながら、ICTの活用を実施していく必要があると考えられる。
- ④ 生活支援系事業の職員充実を図ります。
  - ・「はぁねす」においては、会議を充実させることで、事業所内の課題共有や対応をより具体的に進めている。「光撰ホーム」においては、職員の勤務状況の調査を目的に、4月からは夜間休日の電話対応の調査を開始し、12月には職員に対するアンケート調査を実施している。調査の結果等から、業務携帯所持についての課題等を確認することができた。今後は、調査結果を踏まえながら対応を進めていく必要があると考えられる。

## (2) 事業について

- ① 日中活動プログラム開発プロジェクトにより、「その人らしく働く」職場の拡大を行っていく。
  - ・毎月の定例会議にて、課題の共有や課題の解決等について確認してきた。8月20日（木）に、開かれた理事会において、プロジェクトの継続の承認を受けた後は、新メニューの開発（牛丼）なども行っている。今後は、当初の目的だった「地域とのつながりの強化」を更に進めていくための取り組みを実践していくことが必要だと考えられる。
- ② バクさんのくつろぎの移転により、生活介護事業所の機能強化を行います。
  - ・5月から、くつろぎ物件の大家と何度も話し合いを重ねた上で、9月末の解約を行うことができた。また、当初は、10月に移転する予定であったが、9月8日（月）から、バクの家内での活動を開始している。今後は、機能強化に向け更に話し合い等を行っていく必要があると考えられる。
- ③ バクのパン屋さん活動場所の課題解決に向けた計画案を作成します。
  - ・職員会議の中で話し合いを重ねてきた。その中で、喫茶アウルを活用したプログラムの開発など、現在の法人にある資源を有効活用しながらプログラムの充実を図り、課題解決に取り組む方向を確認している。今後、事業所内でプログラム

の

開発などの取り組みを具体的に進めていく必要があると考えられる。

### (3) 人材育成

- ① 理念本に沿った年間研修計画を作成します。
  - ・新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、当初の計画通りの研修は行えなかったが、「ひこうせん編集会議」が中心となって、研修動画（虐待防止法関係）を作成し、YouTubeを利用した職員研修を実施することができた。また、2月27日（土）には、WEB研修を実施した。今後も、新型コロナウイルス感染症の状況を考慮しながら、WEB研修の活用も含めた、職員の学ぶ場の確保を行っていく必要があると考えられる。

### (4) 労働条件

- ① 慶弔金規程の変更により、福利厚生の実施を行います。
  - ・7月1日（水）に、「社会福祉施設従事者相互保険」への加入を行い、8月1日（土）に、「社会福祉施設従事者相互保険」をベースとした慶弔金規程への変更を行った。
  - \*社会福祉施設従事者相互保険加入者数：37名
- ② 全ての常勤職員が、年間10日以上の有給休暇が取得できるように環境を整えます。
  - ・事務局会議の中で、各事業所の環境整備の対応についての報告や事例の共有などを実施した。対象職員全体の10日以上の有給取得率は25パーセントとなり、75パーセントの職員が10日以下の有給取得状況となっている。今後も、各事業所単位で環境調整を実施しながら、各事業所では解決できない部分を法人全体で対応した上で、全ての常勤職員が、年間10日以上の有給が取得できる環境を整えていく必要があると考えられる。
- ③ 2019年度に作成した俸給表に沿った定期昇給を行います。
  - ・4月に、常勤職員については、1等級（平均月額2,500円）の昇給を行い、非常勤職員については、時給（5円～10円）を昇給している。なお、5月1日（金）には、全職員に「処遇改善一時金」の支給を実施した。職員が安心して長く働き続けるための環境の一つとして処遇はとても重要であり、今後も処遇改善を実施していく必要があると考えられる。

● 摂津交流センターバクの家・バクさんのくつろぎについて

1、事業の目標の振り返り

(1) 事業所外での活動の充実を図る

- ・2019年度は、利用者の誕生日にバクかふえにて喫茶活動をおこなっていたが誕生日とせず、年に2回活動をおこなえるように頻度を増やして実施をした。
- ・他イベントを計画はしていたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により中止とした。

(2) 休日開所スケジュールの作成をおこなう

- ・年度初めに年間開所スケジュールの作成をおこなったが、新型コロナウイルス感染症の拡大により市内の各イベントが中止となり、予定通りの開所にはならなかった。7月以降に事業所の開所は、随時おこなった。

(3) バクさんのくつろぎ移転について検討・調整をおこなう

- ・2020年に入ってからバクの家とくつろぎの職員で合同の会議をおこなう予定であったが、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響もあり満足に会議をおこなうことが難しかった。
- ・茶話会などイベント時に一緒に活動をすることから始め、内職や公園掃除など日常的にも交流を深めています。利用者だけでなく職員も交流することができている。

2、ヒヤリ・事故・苦情の振り返り

(1) 一年間の件数について

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
ヒヤリ	26	24	31	30	32	31	
事故	3	4	2	0	0	6	
苦情	0	0	3	2	0	0	
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ヒヤリ	21	20	20	18	21	27	301
事故	0	0	2	0	0	0	17
苦情	0	0	0	1	0	0	6

(2) 内容と振り返りについて

① ヒヤリハットについて

- ・障害特性による行動障害やこだわり、パニック時の自傷・他傷行為の事例が多く、事業所内だけでなく、外での活動時にも通りすがりの人に対して接触をする場面もあった。
- ・つまづきや転倒なども多く挙げられている。

② 事故について

- ・階段を昇る際に体勢を崩し転倒することや昼食時の服薬忘れがあった。階段昇降に関しては、職員の付き添いやエレベーターの利用をしている。服薬に関しては、ダブルチェック体制を作り確認の強化をおこなっている。

③ 苦情について

- ・家族からの問い合わせや要望がほとんどであった。
- ・送迎車が渋滞でいつもの到着時間より遅延した際、連絡を入れていなかった。対応としては、連絡が必要な利用者に対し、送迎前に連絡をするようにした。

3、工賃実績について

工賃支払い総額	1,326,138 円
平均工賃	3,871 円

\*工賃支払総額：2020年度1年間に利用者さんに支払った工賃の総額

\*平均工賃：2020年度1年間に支払った工賃の総額÷2020年度1年間に工賃を支払った利用者さんの延べ人数

●ハッピーワールドについて

1、事業の目標の振り返り

(1) 日帰り旅行を実施する。

・計画は行ったが、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により中止となった。今後、新型コロナウイルス感染症の状況を考慮しながら、行事等を開催していく方法を考えていく必要があると考えられる。

(2) 年間休日開所スケジュールを作成する。

・年度初めに予定を作成したが、新型コロナウイルス感染症の拡大により、大幅にスケジュール変更を行った。11月から年間スケジュールに基づいて休日開所を再開した。祝日を開所日とし、年間8日開所し、延べ119名の方が通所してくれている。今後も、祝日を中心に開所日数を増やす取り組みを継続していく必要があると考えられる。

(3) 利用者に分かりやすい工賃規程に変更していく。

・年度初めから、職員会議の中で、工賃規程の見直しについて話し合いを重ねた。ただ、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、主力の就労事業である「発送作業」の減収が顕著となった。また、11月には、発送作業発注先からの仕事の打ち切りの話があった。そのような状況を踏まえて、工賃規程の変更を見送りすることとした。また、新型コロナウイルス感染症拡大の状況の中で、新しい仕事内容を見つけていく必要があることも確認できた。今後は、建物等の老朽化も考慮しながら、新しい仕事内容を考えていく必要があると考えられる。

2、ヒヤリ・事故・苦情について

(1) 一年間の件数について

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合 計
ヒヤリ	7	15	7	10	11	9	
事故	5	6	3	10	5	2	
苦情	1	0	1	0	0	3	
月	10月	11月	12月	21年1月	2月	3月	
ヒヤリ	11	26	14	5	5	8	128
事故	5	3	5	3	2	6	55
苦情	1	1	0	2	0	0	9

※11月のヒヤリの件数が多いのは不安定だった方や、以前と違った様子だった方がいたた

め、気づきをヒヤリの件数に入れたことによる。

(2) 内容と振り返りについて

① ヒヤリハットについて

・利用者同士の接触や利用者の不安定な状況での大声を出す等の事例が多く挙げられている。また、アウル活動での作業の際に起こる、衛生面（机に落ちたものの取り扱い等）や包丁で作業の際に怪我をしそうになる場面がある。

② 事故について

・障害特性の行動によるケース(利用者を押す、物を壊す等)が多い。利用者同士の距離を置く(他の利用者に離れた場所に行ってもらい・見えないようにする)や本人の希望を尊重し過ごしやすい状況づくりをおこなう、一人で落ち着いて過ごせるような環境づくりをおこなうなどの対応を実施した。また、今年度は、施設外での活動中に、利用者が地域の方に不適切な接触を行う事例もあった。その際も、職員間で情報共有を行った上で、必要な対応等を確認し実施している。

③ 苦情について

・家族等からの問い合わせや駐輪場の管理人からの問い合わせを件数として挙げている。問い合わせがあった際には、その都度状況の説明と今後の対応の説明をおこなう。家族が来所している際には状況を見てもらった上での説明もおこなう。問い合わせがあった際は、職員間で共有する。職員間でも家族や利用者の思いを尊重できるように今後の対応の検討をおこなっている。

3、工賃について

工賃支払総額	2,475,270 円
平均工賃	11,621 円

\* 工賃支払総額：2020 年度 1 年間に利用者さんに支払った工賃の総額

\* 平均工賃：2020 年度 1 年間に支払った工賃の総額 ÷ 2020 年度 1 年間に工賃を支払った利用者さんの延べ人数

● バクのパン屋さんについて

1、事業の目標の振り返り

(1) 市内、市外相談支援事業所等への情報提供や、支援学校への情報提供をおこない、利用登録者の増加を目指します。

・相談支援事業所との日々の繋がりの中で、見学者の受け入れを行うことができた。11月からは、月に1回、摂津市支援学校への販売を行うことができ、その中で、新たな繋がりを作ることができた。

(2) バクのパン屋さんの活動場所において、現状を把握し、課題点を明確にします。

・利用者さんの人数に対して活動スペースが十分でない中、喫茶アウルを利用したプログラム等を実施した。喫茶アウルを利用することで新たな活動スペースを確保することができ、利用者さんの活動スペースを広げられた。

(3) パンやクッキーの年間売り上げ420万円を目標として取り組みます。(前年度比プラス20万円)

・前年度の年間売り上げは、402万円であったが、今年度は、396万円となっている。コロナ禍の影響を受けて、外部への販売や、地域行事での販売がなくなったことが減収の主な原因となっている。しかし、店舗での売り上げは、前年度に比べて増収している。バクのパン屋さんでは、前年度比約1.3倍となり、バクかふえでは、前年度比約1.6倍となっている。

2、ヒヤリ・事故・苦情について

(1) 一年間の件数について

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合 計
ヒヤリ	18	12	14	19	12	24	
事故	6	4	3	1	3	4	
苦情	1	1	1	1	1	2	
月	10月	11月	12月	21年1月	2月	3月	
ヒヤリ	33	22	24	18	34	24	254
事故	4	3	4	1	2	2	37
苦情	0	5	2	0	1	1	16

(2) 内容と振り返りについて

① ヒヤリハットについて

・バクのパン屋さんでは、パン工房内で発生していることが多い。内容としては、パン製造作業等に関わるものと、利用者さん同士の人間関係に関わるものが多数をしめている。作業スケジュール等を変更して、利用者さんがより活動しやすい環境を提供した。バクかふえでは、利用者さん同士の人間関係に関わるものが中心となっている。個別に利用者さんの障害特性に配慮した環境設定を行った。

② 事故について

・利用者さんへのアセスメント不足により発生した事故があった。職員間で再アセスメントを実施した上で、環境の改善を行った。

③ 苦情について

・利用者さん同士の人間関係に関わるものが多い。その都度、利用者さんの話を聞き、話し合いを行ったり、必要に応じて改善策を一緒に考えた。

3、工賃について

工賃支払総額	1,359,648 円
平均工賃	5,618 円

\*工賃支払総額：2020 年度 1 年間に利用者さんに支払った工賃の総額

\*平均工賃：2020 年度 1 年間に支払った工賃の総額÷2020 年度 1 年間に工賃を支払った利用者さんの延べ人数

●光摂ホームについて

1、事業の目標の振り返り

(1) 人材確保のシステム作りの開始

・法人の事業の中で、グループホームのみが年中無休で夜間帯に業務を遂行する事業となっている。そのような中、グループホーム事業の必要性を法人内で共有していくこと、グループホーム事業の人材を確保していくことが事業継続を行う中で重要な位置づけであると考えられる。そのため、今年度からは、人材確保に向けての取り組みを開始した。今年度は、特に、現状把握を行った上で、課題を明らかにする取り組みを実施した。具体的には、職員（世話人）に対して、職場についてのアンケート調査を実施した。アンケートでは、賃金、勤務日数（時間）、職場での人間関係等についての質問を主に行った結果、働いている職員の満足度は高い傾向がみられた。また、アンケートを依頼した全ての職員が回答を行ってくれている。今後は、アンケート結果をもとにして、法人内でのグループホーム事業の必要性の共有や、研修等に繋げながら、人材確保に向けた仕組み作りを進めていく必要があると考えられる。

2、ヒヤリ・事故・苦情について

(1) 一年間の件数について

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
ヒヤリ	10	6	10	3	8	7	
事故	10	7	11	5	10	9	
苦情	1	0	0	1	0	0	
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ヒヤリ	3	4	2	9	4	4	70
事故	6	2	6	0	8	6	80
苦情	0	1	0	1	0	0	4

(2) 内容と振り返りについて

① ヒヤリハットについて

・今年度は、他害行為(大声を出す、物を投げようとする、睨みつける等)が多く。その次が服薬に関するもの(一時的に薬が紛失するが、その後見つかる。薬の日付を間違えて手渡しする)があった。

② 事故について

・今年度は、他害行為(世話人・利用者を叩く、物を投げる、物を叩く等)が一番多く占め、その次に服薬に関する事故(飲み忘れ、薬カレンダーへのセッティング忘れ等)であった。他害行為に関しては事業所内だけでなく、日中事業所や相談機関に加え、主治医や、病院のケースワーカーや福祉相談室にも他害の状況や支援について、助言をもらうなどの連携を行った。また、並行して他害を行っている利用者のレスパイト入院についても、相談等を行った。

③ 苦情について

・苦情に関しては、利用者からは職員の対応に関する苦情や他利用者に対する苦情があった。また、関係機関からの苦情もあった。職員会議等で苦情と対応策についてや、利用者理解と支援方法について共有を行った。

3、通院介助の状況について(光摂ホームのみ)

通院先	30代	40代	50代	60代	70代	小計
精神・神経科	9	25	13	12	0	59
内科	1	31	14	13	9	68
外科	0	2	0	0	0	2
整形外科	0	2	12	0	0	14
皮膚科	11	1	4	1	0	17
婦人科	2	2	6	0	0	10
眼科	0	0	4	0	0	4
泌尿器科	0	0	0	0	1	1
歯科	0	24	16	12	0	52
合計	23 (11.5)	87 (12.4)	69 (23.0)	38 (38.0)	10 (10.0)	227(16.2)

\* 30代：女性1名 男性1名    40代：女性5名 男性2名    50代：女性3名  
60代：女性1名    70代：女性1名

\* ( )内は各年代での平均通院件数

4、光撮ホーム携帯夜間・休日対応状況について（光撮ホームのみ）

項目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計	合計
金銭	夜間	3	3	4	4	0	1	2	0	0	0	1	3	21	42
	休日	2	1	0	2	4	2	0	0	2	2	3	3	21	
体調	夜間	6	10	4	0	0	0	11	3	4	2	3	13	56	129
	休日	2	14	1	12	2	10	8	0	6	4	7	7	73	
食事	夜間	2	3	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	7	12
	休日	0	2	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	5	
外出	夜間	3	10	10	3	1	6	1	5	8	0	3	39	89	293
	休日	3	21	24	24	16	14	13	12	6	29	18	24	204	
日用品	夜間	3	3	5	2	0	1	3	0	5	2	3	2	29	52
	休日	0	4	4	1	4	3	0	2	2	1	1	1	23	
修繕	夜間	3	7	4	1	1	0	6	3	2	1	2	0	30	66
	休日	2	6	2	1	5	3	1	2	0	4	2	8	36	
人間関係	夜間	0	3	4	5	3	1	1	1	0	1	1	0	20	32
	休日	0	3	0	0	2	1	0	0	0	1	4	1	12	
職員	夜間	1	3	5	0	2	3	0	7	0	0	5	4	30	60
	休日	0	1	1	0	4	7	2	3	0	3	8	1	30	
家族	夜間	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3	4	6
	休日	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2	
その他	夜間	0	4	9	8	1	12	7	0	5	1	9	11	67	153
	休日	1	10	4	4	11	7	10	6	12	12	5	4	86	
夜間小計		21	46	46	23	9	24	32	19	24	7	27	75		353
休日小計		10	62	36	45	48	47	36	26	29	56	48	49		492
合計		31	108	82	68	57	71	68	45	53	63	75	124		845

\*夜間：平日の17時15分から翌日8時45分まで

● 摂津障害者生活支援センターはあねすについて

1. 事業実績報告

① 障害者相談支援事業（摂津市委託事業）

相談者数と障害種別

	実人員	身体障害	重症心身	知的	精神	発達障害	高次脳	その他
障害者	107	81	0	27	6	0	3	12
障害児	0	0	0	0	0	0	0	0
計	107	81	0	27	6	0	3	12

(実人員<障害種別合計数)

支援内容（支援方法）

訪問	来所	同行	電話	メール	個別支援 会議	関係機関	その他	計
121	73	35	364	55	14	950	43	1655



行政機関	訓練等給付費関係	介護給付費関係	医療機関	高齢介護関係
199	191	167	137	137
20.9%	20.1%	17.6%	14.4%	14.4%

支援内容（相談内容）

福祉サービス	障害-病状理解	健康・医療	不安の解消	保育・教育	人間関係	
677	13	307	228	22	102	
家計・経済	生活技術	就労	社会参加-余暇	権利擁護	その他	
53	133	41	7	6	66	
					計	1655

② 指定特定相談支援（計画相談支援（摂津市指定）

計画相談対象者：84名

サービス等利用計画作成件数：97件

継続サービス利用支援件数：237件

③ 一般相談支援（地域相談支援（大阪府指定））

サービス提供の実績なし

④ 障害当事者交流会「とにかくいっぺん集ってみよう会」

新型コロナウイルスの影響により休会

2. 事業目標の振り返り

・相談者が望む暮らしを選択し、希望を実現していく過程を見守り支えていきます。相談者のニーズを的確に把握し、自己選択を尊重することで、障害者の権利を守ります。

→相談員が主導して目前の課題を解決するのではなく、相談者に希望する暮らしや利用したいサービスを選んでもらうことを心掛けて支援を行いました。

将来の暮らしや仕事に対するビジョンを持ちにくい若年の相談者に対しては、定期面談を実施して気持ちを表出する場を設定しました。

また今年度は、ご本人の希望で障害福祉サービスの利用を終了するケースが目立ちました。4名の方が就職をきっかけに就労系サービスの利用を終了しました。サービスに頼らず自立したいという理由でサービス利用を終了した方もおられました。

計画相談支援の契約終了後も近況確認や不安傾聴、家計経済に関する支援等、委託事業として相談支援は継続しています。

・多機関連携によるチームアプローチをさらに浸透させ、支援体制を強化します。近年の相談傾向を踏まえ、介護保険や医療、司法、就労、子育て・教育など、他分野と協力関係を築いていきます。

→今年度は新型コロナウイルスの影響により、事業所訪問や個別支援会議の回数が例年よりも減りました。その分、複数の関係機関と個々に連絡を取り合って情報を共有する必要がありました。関係機関とのやり取り（情報共有や支援調整等）は、昨年度の倍近い件数になりました。特に摂津市障害福祉課の担当ワーカーとは密に連携し、計画相談対象者の状況や支援方針を共有しました。

生活支援課のワーカーやケアマネージャー、介護保険サービスのケアマネージャー、病院ワーカー、保健所職員や嘱託医と連携する機会もあり、困難事例においては特に重層的な支援体制で臨みました。

・相談支援専門員を確実に 3 名配置し、昨年度以上に多くの相談に応えられるようにしま

す。事業所内での訪問同行やケーススタディーによって、新人相談員の育成及び全ケースの情報共有、フォロー体制確立に努めます。

他法人の相談支援専門員や市ケースワーカーとも密に連携し、地域課題にともに取り組み、委託相談支援事業所としての責務を果たします。

外部研修への参加、基幹相談支援センターへのケース相談を通して、相談支援専門員のスキルアップに努めます。

→今年度も相談支援専門員3名体制を維持することができました。1名は他事業所との兼務ながら、担当ケースは昨年度より増えています。2名の現任研修終了の相談支援専門員が初回面談や訪問に同行する機会も多くありました。週1回のミーティングと月1回の職員会議を行い、ケースの進捗確認や支援の進め方等について意見交換することもできました。

また相談支援専門員の欠員に備え、統括施設長が相談支援従事者初任者研修を受講されました。

今年度は新型コロナウイルスの影響により、自立支援協議会代表者会議や相談支援部会の一部が書面開催となり、予定されていた研修の中止もありました。そのような状況下ではありましたが、相談支援部会の中で地域課題解決のためのワーキングや触法障害者支援をテーマとした研修が実施され、当事業所も委託相談支援事業所として参加することができました。

来年度はより充実した人材育成や研修への参加を目標としており、初任者研修終了の相談支援専門員が基幹相談支援によるスーパービジョンを受ける予定です。また相談員1名が手話講習受講を予定しています。

●地域交流室について

活動日	活動内容
4月23日(木)	第25回摂津市民福祉まつり 事務局
6月5日(金)	日中プログラム開発プロジェクト会議
8日(月)	阪急立体交差事業 説明会
17日(水)	大阪府社協 セルフ部会 総会
23日(火)	わたバ会
25日(木)	居住支援勉強会(ZOOM)
27日(土)	一中校区子ども食堂 ミーティング
7月10日(金)	日中プログラム開発プロジェクト会議
31日(金)	緑化推進連絡会 運営委員会
8月7日(金)	日中プログラム開発プロジェクト会議
17日(月)	福祉就職フェア
18日(火)	ひこうせん編集会議
9月11日(金)	日中プログラム開発プロジェクト会議
15日(火)	ひこうせん編集会議
22日(火)	わたバ会
28日(月)	就職フェア会議
29日(火)	わたバ会
10月13日(火)	ひこうせん編集会議
22日(木)	就職フェア打ち合わせ
22日(木)	大阪人間科学大学との打ち合わせ
23日(金)	日中プログラム開発プロジェクト
11月2日(月)	障害者週間啓発事業運営会議
5日(木)	阪急高架事業に関して たんぼぼさんの意向確認
9日(月)	大阪人間科学大学 相談援助演習IV
16日(月)	摂津市人権協会 定例会
20日(金)	日中プログラム開発プロジェクト
28日(土)	1中校区子ども食堂
12月6日(日)	デイハウス味舌 草刈り
15日(火)	ひこうせん編集会議
18日(金)	日中プログラム開発プロジェクト
20日(日)	ハッピー食堂 あいのわ

